



「森と劇場のサーカス・フェスタ」出演者一同

● サークス学校のこれからについて考える

昨年の7月、17年目の授業終了後、休校期間に入ったサーカス学校だが、どうしても学びたいという若者たちの声が寄せられ、また休校を惜しむさまざまな方々のご支援もあって、この4月から再開する運びとなった。

再開には当然のことながら、17年間ウクライナから来てくださっていたナージャ先生の後任を見つけることとある程度の資金が必要で、まずはこのふたつの問題を解決しなければならなかった。

幸いにも、キエフの国立サーカス学校卒業後、同校で講師を務め、なおかつ5年間演出の勉強をして資格を取った、ナージャ先生の娘のオーリャさんと、2009年にサーカス学校を卒業し、サーカス・アーティストとして活動している天野真志君が先生を引き受けることを快諾してくれたので、大きな問題のひとつが解決。資金面もまた、7名の生徒の入学が決まったうえに、本協会の会員の方々の温かい支援があり、当面の資金繰りに目処をつけることができた。

ただし、生徒は10名以上が在籍してくれるのが望ましいので、今後も、体験入学、ワークショップなどの機会を増やし、増員を心がけたいと考えている。

同封チラシにもあるように、実は、今年のヨコハマ大道芸、野毛大道芸には、サーカス学校卒業生が合わせて3チーム、総勢15名が出演し、それぞれのメイン会場でのパフォーマンスを披露する機会をいただいた。(オーリャと天野真志も、”Duo AB”としてヨコハマ大道芸に出演)。これまでにも、個人として参加した卒業生は

何人もいるが、サーカス学校卒業生チームとしての参加は初めてで、サーカス学校休校・再開というこの時期に出演できるのも何かの縁というか、多くの人々がサーカス学校を温かく見守ってくれていたからではないかと感じている。生徒が集まらない時期があったり資金繰りに苦労したこともあったりしたが、サーカス学校の活動は決して無駄ではなく、若い人々が社会に出て行く、そのための技術を身につける役割をある程度果たしてきたのではないと思う。

実は、本会報に掲載されている“フィンランドサーカス”で詳しく触れているが、このサーカスショーのメンバーは、フィンランドの国立職業訓練所のなかにある<サーカス教育>で学んだメンバーである。このサルパオス(salpaus)という機関は、なんと工業製造、インテリア装飾とデザイン、社会と健康、ビジネスと管理、観光などから移民トレーニングなど、40近い研究分野を網羅している、フィンランドの文部科学省の教育機関なのだ。このなかにサーカス教育があるのには驚かされてしまう。というよりも日本でのサーカスの認知のされ方とのギャップに、サーカスに関わるものとしてはショックを受けざるをえない。

私たちのサーカス学校は、当初は、世界に通じるサーカス・アーティストの養成を目指していたが、来校する生徒たちの身体能力を鑑みつつ、ハイレベルの身体能力、技術を身につけるために、ひたすら厳しい訓練をするのではなく、来校生の希望を聞き、また身体能力にあった練習によって、求める技術を身につけられるように指導してきたし、再開した学校においても、そのような指導を行うつもりである。

こうした指導では、世界のサーカス学校で学んで育つ若者たちとのレベルに差がつくのは当然だが、当校としては、まずは学びたいことを諦めずに学んでいく努力を身につけてもらいたいし、ある程度身につけた技術が認められる分野へ、例えば大道芸のイベントなどで仕事ができるようになってほしいと思う。

その一方で、サーカス学校の運営をひとつの社会的な活動として考え、サーカスのもつ可能性をアピールし、さらなる活動へと駒を進めたい。休校・再開を、これまでの単なる延長と捉えるのではなく、サーカス学校のもつ社会的な可能性をすこしでも追求していきたいと、今は願っている。(西田 敬一)

◆童謡ふるさと館にて開催中 「ポスターやジオラマから見る サーカスの世界展」

校長 西田が長い年月をかけて古今東西より収集したサーカスのポスターやジオラマ等々、古きよき貴重な資料をロビー展示しております。わたらせ渓谷鉄道沿いの春の景色も楽しめます。皆様、お誘いあわせのうえ足をお運びいただければ幸いです。

■期間 2019年3月16日(土)～4月14日(日)

■休館日 月曜日(但し、祝日と重なる場合は開館 翌日は休館)

■開館時間 午前9時から午後5時(入館は午後4時30分まで)

■場所 みどり市 童謡ふるさと館; 群馬県みどり市東町座間 367-1

■最寄り駅 わたらせ渓谷鐵道「神戸」(ごうど) 駅下車約1.8km。車約4分・徒歩約20分。

バス停「童謡ふるさと館」(路線バス) 下車すぐですが、バスの本数が少ないため事前に調べてからお出かけください。

■観覧料 無料 ※童謡ふるさと館の資料室にご入室の場合は入館料が必要です。

■みどり市役所ウェブサイトより「童謡ふるさと館」

<https://www.city.midori.gunma.jp/.../contents/1000.../index.html>

■お問い合わせ先 童謡ふるさと館 ☎0277-97-3008



●サーカスアーティストとしてサーカスを考える (沢入国際サーカス学校卒業生 油布 直輝)

サーカス。

ひとえにサーカスと言ってもその有りようは様々で、その多様さもサーカスがもつ魅力のひとつであると思う。サーカス自体が行われていなくても、サーカスということばの持つ、どこか異世界に入りこむような、その摩訶不思議で奇想天外なイメージで何かのタイトルとして使われていたりもする。

いま、日本で目にするサーカスのほとんどはエンターテイメントとしてのサーカスだと思う。それはそもそもサーカスというものが見る人に驚きや感動、楽しさを届けるものであるから、それはそれで本来のカタチだと思うし、そういう需要の方があつた。今自分が行っているショーもエンターテイメント寄りであるわけだけど、そういうショーってその瞬間だけのものであるというか、凄かつた、ビックリした、綺麗だつた、面白かつた、そんな感想を残して無くなつていきませんか?と思つたりする。

沢入国際サーカス学校に入る前、完全に観客側だつた頃は、その瞬間のサーカスという非日常の空間の中で繰り広げられる技の数々がすごく刺激的で、普段は味わえない興奮や、いろんなものから解放されるような感覚があつたし、その瞬間のものだからこそ逆に良くて異世界に来たようなサーカステントの中の雰囲気はすごく好きだつた。もちろんそれは今も変わらないけど、自分がステージに立つ側になつた今思うのは、見てくれる人がいるんだつたらもっと見てくれる人がショーを見た後に凄かつた面白かつた以外の何かを持つて帰つてもらいたいなということ。



サーカスの本質、素晴らしさとは結果としてショーとして現れる表の部分じゃなくて、それをやるまでの裏にある何かに挑戦し失敗を重ねてもそれを乗り越えていく努力、不安や恐怖に打ち勝つ勇氣、自分を信じそして仲間を信じるなど、過程にあると思う。逆に、その裏があるから表のショーが素晴らしいものになるわけなんだけど。その過程で身につく能力って、社会で生きていく上で必要な要素でもある。日本ではまだ広く認知されていないソーシャルサーカスのような活動が世界中で受け入れられていて、去年自分がモンゴルに滞在中もストリート

チルドレンたちにサーカスを教え、居場所を作り、仲間ができて、ショーをして収入を得て、自立を助ける。そんなサーカスも直に見てきた。サーカスで生まれる、人との関わり。人と関わることは社会と関わることだと思うから、サーカスも社会と関わる意義があると思う。社会にプラスになるものをサーカスは秘めているし、そうして社会に浸透していくことで文化になっていくんじゃないかなと。

人間の生き方や日常での本質的な気づき、その時代に社会で起きている問題なんかにしても、サーカスが取り上げてショーとして見せることでサーカスが持つ性質と相まって、よりインパクトをもって伝えられると思う。そういうメッセージ性があつて、観客に何か考える機会を与えられるようなショーをすることにアーティストとしての役割と価値をとつても感じる。もちろんただ伝える事だけじゃなくて、自分はサーカスアーティストであるから、それだけのインパクトを与えられるスキルとレベルを伴うしつかりとしたサーカスショーとして見せることが前提としてあるべき。

そういうことをテーマにしてショーをしているサーカスも世界にはもちろんあるわけで、とりあえずいろいろ見に行きたい。その前に、自分が日本はもちろんのこと世界についても勉強しないとイケないし、いろんな国を見てそこの人達と交流して何を感じ、何を考えるかつてことが必要だんと思う。理想なんてすぐに実現するもの

ではないし、まだサーカスアーティストとして全然経験が足りていないけど、今年も海外でショーをする機会があるわけだから、そこでまた気づくこと、感じること、思うことを大事にして少しずつカタチになっていけばと思っている。これは、サーカスはこうであるべきだとかいう話をしてしているわけではなく、自分がサーカスアーティストとしてどうしていきたいかという話だ。

自分の好みはあるけれど、広い目で見ればサーカスにはいろんな側面があり、なにが正しいかなんてあるわけではないと思う。そのどれもがサーカスの持つ可能性であり、そうやって可能性を探求して行けば、きっと社会にプラスになるような影響を与えられるのではないかな。

●20年後の再会 ～フィンランドサーカス (大野 洋子)

「1000の湖のある国」として有名なフィンランドは、平等な民主主義の国、そして世界で最もきれいな空気の国とも言われ、サンタクロースやムーミンの故郷でもあります。

そのフィンランドから、10名のサーカスアーティストで構成した“フィンランド・サーカス”を、リトルワールド（愛知県犬山市）に招聘しました。

この10名のサーカスアーティストたちは、“アークティック・アンサンブル”（Arctic Ensemble）というチームで活動をしており、全員がフィンランドのサーカス学校を卒業しています。このサーカス学校は、「ササク・サルパオス・サーカスアーティスト・トレーニング」（sasak salpauksen sirkusartistikoulutus）という、プロのサーカスアーティストを養成するための、高等職業訓練所で、文部科学省の教育機関です。国立とは謳っていませんが、フィンランドでは、サーカス修士課程の学位が取得できる、唯一のサーカス教育機関です。

この高等職業訓練所では、サーカスだけでなく、工業製造や建設、デザイン、情報通信技術、食品産業、美容ケア、ホテル業などその教育内容は多岐に渡り、移民のための教育も行なっています。平等な民主主義の国ですから、授業料は、留学生も含め無料です。サーカス学校は、設備も整っており、リギング（吊り物の仕込み）の教育もきちんと成されている事は、今回のメンバーの仕込みを見ていても明らかです。そして、それぞれのアーティストは、少なくとも2つ以上の得意な芸を持っています。

入学するためには、選考があるようですが、3年という就学期間の学生の人数には上限（40名程度）があるため、毎年採用があるかどうかは、その時の就学人数によるそうです。サーカス教育が、高等職業訓練所で成されているとは、驚きましたが、フィンランドでのサーカスに対する意識の違いにも、驚かされました。

フィンランドとのお付き合いは、1999年に遡ります。リトルワールドに、北欧サーカスを招聘した時に、アーティストのブッキングでお世話になったのが、トム・ヘルテルという、フィンランドのプロデューサーでした。トムは残念ながら、数年前に他界しましたが、現在は息子のルネが跡を継いでおり、今回の招聘に尽力してくれました。

そして、この北欧サーカスのメンバーのひとりに、サーカス・フィンランドディア（Sirkus Finlandia）というフィンランドで一番大きく歴史のある（1976年設立）サーカスの息子、カーレが、ジャグラーとして入っていました。





カーレは、現在は、サーカス・フィンランディアの跡を継いでおり、それぞれの息子の代になっても、その繋がりは変わらず続いているようです。

この話がどこに着地するかというと、今回招聘した、アーティック・アンサンブルは、昨年このサーカス・フィンランディアに出演しており、私からの依頼をルネはカーレに相談してくれていたこともあり、サーカス・フィンランディアを見にいつてくれたルネが、繋いでくれたというわけです。1999年以降、フィンランドのサーカスアーティストを招聘できないかと、トムとは何度もやり取りをしましたが、うまく行かず、20年後にやっと実現できたのは、私にとって、とても感慨深いものがあり、トムが元気だったらと思わずにはられません。

家庭の事情でグループと一緒に来られなかったルネに代わり、カーレが家族旅行を兼ねて初演に来てくれました。20年という時

を経た彼は、立派なサーカスのオーナーになっていました。

サーカス・フィンランディアは、1年のうち、厳しい冬を除いて、4月～10月までフィンランド各地で巡業をします。1日～3日ぐらいの短いスパンで移動しており、最後はヘルシンキで約1ヶ月の公演をして、1年を締めくくります。ビジネスはどうかと聞くと、なんとかやっているよと。4月はまだ氷が溶けていない場所もあり、キャンセルをせざるを得ないこともあるそうです。昨年は、フィンランドのアーティストを多く起用したのが幸いしたようで、アーティストたちが宣伝をしてくれて、夏の暑い時期でも満員御礼の日が結構あったそうです。一番気になったのが、動物芸です。サーカス・フィンランディアにも動物がいますので、愛護団体からの批判はないのかと聞いたところ、ヨーロッパ全体が、サーカスの動物芸を批判する傾向になりつつあった頃に、フィンランドの動物愛護団体には、自分たちがどのように動物たちを飼育し、どのように共生しているのかを、何度も話し合いを重ねて説明し、その成果があつて、動物愛護団体は、「サーカスに動物芸を観に行くのはやめましょう。でも、どうしても動物を見たければ、サーカス・フィンランディアに行きましょう」と言うまでになったそうです。カーレの真摯で誠実な性格が、功を奏したのでしょう。動物愛護団体と関わるのは、サーカス団体にとって、とても面倒なことではあると思いますが、避けたり戦ったりせずに、話しあうところから始める事が、大切なのだと思います。少なくとも、私が知っている動物トレーナーは、動物を尊重し、ともに生きているのです。カーレに今後の夢を聞くと、昨年、大きな倉庫を購入したので、その2階を改装し、フィンランドのサーカス博物館を作りたいということでした。サーカス・フィンランディアだけでなく、フィンランドの他のサーカス団やコレクターに声をかけ、ポスターやチラシ、古い道具や衣装、テントの一部などを、展示する予定だそうです。それが数年後に完成したら、サーカスの常設小屋を作りたいと、目を輝かせて語ってくれました。

今回のフィンランド・サーカスは、コンテンポラリーなものではなく、フィンランド色をふんだんに入れてもらっています。音楽は全てフィンランドの音楽（中には、これもフィンランドの音楽だったの？というものも含まれています）。衣装も、伝統的な衣装をベースにアレンジしたものを作っています。芸と芸の転換時には、フィンランドの夏や冬を表現する、ちょっとした小芝居もあり、とても楽しいショーになっています。

フィンランドの神話では、世界は空気の妖精の膝の上に置かれた鴨の卵から生まれたとされています。その殻が破られたとき、世界は創られ、星や太陽、月も創られたとされています。

そのフィンランドの世界を、是非リトルワールドまで、足をお運びいただいて、ご覧いただけたら幸いです。



● 「森と劇場のサーカス・フェスタ」 (練馬文化センター) レポート (長屋 あゆみ)

2017年に続き、今回で2回目となる練馬文化センター(東京都)での「森と劇場のサーカスフェスタ」が、3月30日(土)に開催され、無事に終了しました。こちらのイベントは、公益財団法人練馬文化振興協会が主催、当協会が企画・制作を担っています。内容は、埼玉県富士見市「キラリ☆ふじみ」で2012年から毎年開催している「サーカス・バザール」のコンセプトやコンテンツを雛形に、練馬文化センター仕様にアレンジし、劇場だけでなく廊下やリハーサル室、そして、館内だけでなく館外の公園や道など敷地内全体も使って、同時多発的に様々なアトラクションを行いました。その日のうちに現れる非日常・異空間が、翌朝はすっかり消えている、まさにサーカスのイメージに重なりませんか。

出演者は総勢30名余り。ムンドノーボぽこブヨ〜ダン、浅草雑芸団、クラウン ふくろこうじさん、パントマイム 国井 美和子さん、しゃぼん玉パフォーマンスの栗ちゃん、そして沢入国際サーカス学校卒業生メンバーらが、外で内で芸を披露し、楽しませていただきました。

今回の来館者数は、なんと3,100名余り！ 外も含めると4,000名以上が集まったのではないかとこのほど賑わっており、ステージショーのチケットは完売、定員に達するワークショップがあるなど、どのポイントも大変な盛況ぶりでした。

私（長屋）は子どもを産んでから、劇場から足が遠のいていました。何度か子どもたちを連れて行き舞台鑑賞をしたり、託児サービスを利用したこともありましたが、子どものことが気になってしまい私が落ち着いてられないこと、そして移動で疲れてしまうことで、積極的に行きたい場所ではなくなっていました。劇場に幼い子どもを連れて行くとよく言われることは「静かにしてください」「ロビーに出てください」「歩き回らないでください」…。劇場は幼い子どもがいる家庭が歓迎される場所ではないな…とも感じました。そうなるとショッピングモールの方が気が楽なのですが、本当は、家族で劇場に行けたら良いなと思っていました。

「森と劇場のサーカス・フェスタ」は内でも外でも、幼い子どもたちがわいわいギャーギャーしています。大人たちは「静かにしなさい」の代わりに「元気があってよろしい！」という微笑みを向けています。幼い子どもたちだけでなく、付き添いで来た保護者が、いつの間にか子どもよりも夢中になって楽しんでいたり、声をあげて喜んだりしています。ご年配の来場者も多くいましたし、障害を持っている方もいることに気付きました。私は自分に幼い子どもがいるので「幼い子どもがいる家庭目線で居心地が良いとはどういうことか」ということだけを考えてしまうのですが、「居づらさ」というのは人それぞれ異なるものを持っているもので、ご年配の方や障害をお持ちの方は尚更ですよ。自分のことだけでなく、ほかの方が感じている「居づらさ」とは？創造力を持てるようになりたいと感じました。どんな人も受け入れる大きな器。劇場がこのような地域の「ひろば」の役割を果たしてくれると、安心しますね。その際、国籍・年齢・性別・時代・生まれ育った環境に関係なく、理解しやすく愛されるサーカスは、よい起爆剤となることを改めて実感しました。

出演者、スタッフ、関係者の皆さん、ありがとうございました。お疲れ様でした。

＜当日の様子のご紹介＞ ☆劇場ステージでのパントマイム・サーカスショー



↑第一部 ふくろこうじ氏 ソロ公演「出口あり」。



↑第二部 沢入国際サーカス学校卒業生らによるサーカスショー。



☆子どもの遊び場

ムンドノーボぼこぼよ～ダンさんによる手作りのオブジェやおもちゃたちは、遊び心がギッシリ詰まった、この世にふたつとないものばかりです。劇場内の一室を、おもちゃでいっぱいにした「子どもの遊び場」。様々な仕掛けや工夫が光るおもちゃたちは、子どもたちが触れたり、オブジェの中に入ったりして自由に遊ぶことができます。

☆人形楽器・工作あそび



↑ムンドノーボぼこブヨ～ダンさんによる「いのぶたブイぶえ」づくり。かわいいこぶたの笛は、上手くできると「ブー」と音が出ます。3回とも定員に達し、大人気のWSとなりました。

☆ワークショップ広場

←↓クラウン ふくろこうじ氏によるパントマイム・ワークショップ。



↑浅草雑芸団によるワークショップ。写真は、傘回し。

↑沢入国際サーカス学校卒業生によるジャグリング・ワークショップ。

☆森のステージ 大道芸ショー(平成つつじ公園)



↑ 浅草雑芸団の皆さん。願人衣装を身にまとい、大根踊りにあめや踊り、バナナの叩き売りなど様々な演芸を披露。

↑ 国井美和子さんによるダンボールの生き物「はこ君」の回遊パフォーマンスとパントマイム・ショー。

☆ねりま de 女子マルシェ

☆しゃぼん玉



↑ 練馬産の野菜や、地元の方々のパンやお菓子、手作りアクセサリーなどを販売するテントが、平成つつじ公園にズラリと並びました。

↑ 空いっぱい広がるたくさんのしゃぼん玉に、歓声が起こっていました。子どもたちが自由に遊べるミニしゃぼん玉セットも置かれ、子どもたちが楽しんでいました。

☆みんなでわいわい！人形音楽大行進



↑ ムンドノーボぼこブヨ～ダン・元さんのワンマンバンドを先頭に、出演者がゾロゾロ、お客さんたちもゾロゾロと施設周辺を大行進しました。

サーカス公演情報

★木下大サーカス

- 名古屋公演 公演期間 2019年3月23日(土)～2019年6月10日(月)
- 休演日 毎週木曜日と4/10、4/24、5/2、5/8、5/22 ●会場 名古屋市中区栄白川公園 特設会場
- 電話 052-201-0045 ●ウェブサイト <http://www.kinoshita-circus.co.jp/>

★ポップサーカス

- 湘南公演 公演期間 2019年4月20日(土)～6月16日(日)
- 休演日 毎週木曜日と4/26(金)、5/31(金) ●会場 湘南モノレール 湘南深沢駅前 特設大テント
- 電話 ☎0467-38-8826 ●ウェブサイト <http://www.pop-circus.co.jp/>

★ハッピードリームサーカス

- 熊本公演 公演期間 2019年3月16日(土)～5月12日(日) ●会場 宇土シティモール特設会場
- 休演日 4/4(木)、4/11(木)、4/18(木)、4/25(木)、5/2(木)、5/9(木)
- 電話 (3/15から) ☎0964-27-4222 ●ウェブサイト <http://www.dreamcircus.jp/>

★野外民族博物館リトルワールド「フィンランドサーカス」

外交樹立100周年を迎えるフィンランドから10名のアーティストが来日！アクロバティックな技やハラハラドキドキの空中技など、想像を超える驚きのパフォーマンスをお楽しみください。※サーカスは入館料のみでご覧いただけます。

- 期間 2019年3月16日(土)～6月16日(日) ●時間 平日 11:30 / 14:00、土日祝 11:00 / 13:00 / 15:00
- ※5/1(水祝)と5/2(木・休)は11:30 / 14:00の2回公演です。

- 休演日 毎週火曜日。4/30(火・祝)も休演いたします。 ●会場 野外民族博物館 リトルワールド 野外ホール

★シルク・ドゥ・ソレイユ創設30周年記念作品 『ダイハツ キュリオス』

- 仙台公演 2019年4月19日(金)～5月29日(水) ●会場 仙台ビッグトップ(あすと長町)
- 休演日 4/22(月)、4/25(木)、5/1(水祝)、5/8(水)、5/9(木)、5/16(木)、5/23(木)
- お問合せ ダイハツ キュリオス仙台公演チケットセンター(キョードー東北内) ☎022-217-7788
- ウェブサイト <http://www.kurios.jp/index.html>

その他公演情報

★ヨコハマ大道芸 2019

横浜の春の風物詩「ヨコハマ大道芸」。今年のスペシャルプログラムのテーマは「サーカス」。グランモール公園美術の広場にて、沢入国際サーカス学校出身パフォーマー多数がスペシャルショーを行います！

<シルク・ブラン> 出演：森田 智博、渡邊 翼、サクノキ、谷口 界、ハチロウ 音楽：Gypsy Pot

※田中 健太、吉川 健斗の大道芸もあり！ ●日時 2019年4月20日(土)・21日(日) ウェブサイト <http://daidogeij.jp/>

★第44回 野毛大道芸

スペシャルプログラムに、沢入国際サーカス学校出身パフォーマーが多数出演し特別編成ショーを披露します。

<パスパルトウ座> 出演：しゅうちょう、Asako、タカシエンカ、吉川 健斗、颯星

<ジョングルーラー座> 出演：CHEEKY!、DAIKI、田中 健太、喜多 和裕、目黒 宏次郎

●日時 2019年4月27日(土)・28日(日) ウェブサイト <http://nogedaidogeij.com/>